

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告【小学校】

1 調査日

令和5年4月18日（火）

2 調査集計対象

小学校第6学年児童 全国 977,172名（うち江戸川区 5,155名）

3 区内実施校数

全小学校 66校

4 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

5 調査内容

① 教科に関する調査

- 国語・算数

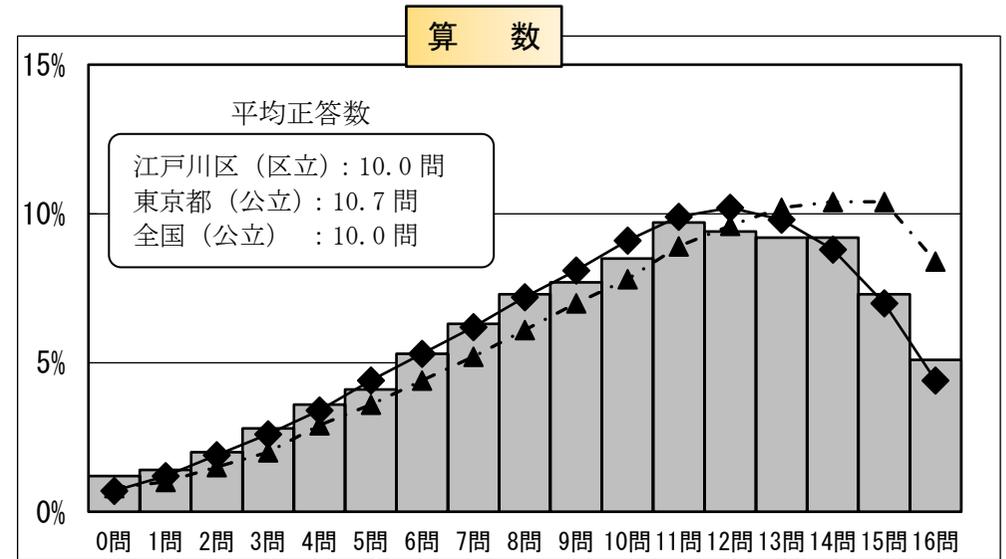
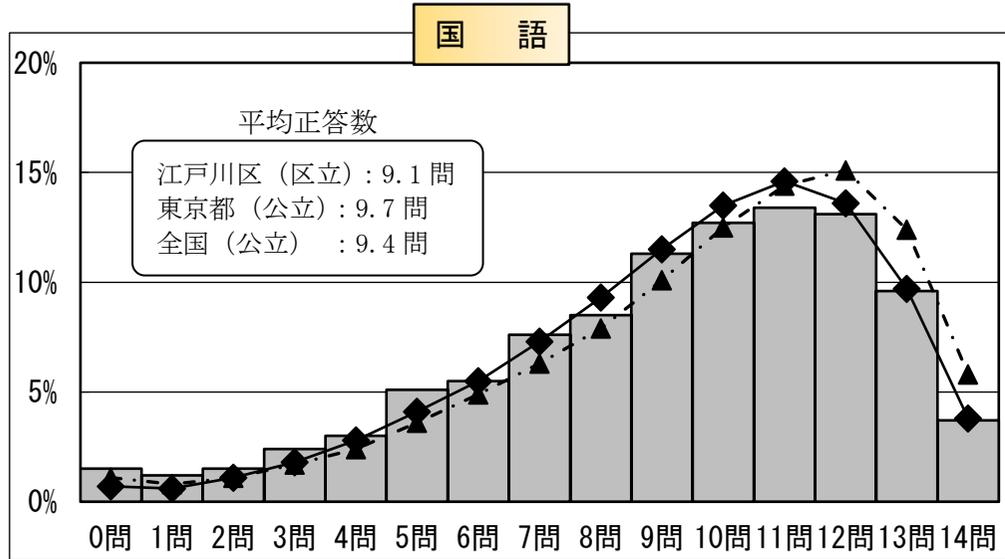
② 生活習慣や学習環境に関する調査

- 児童質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

江戸川区教育委員会教育指導課

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告【小学校】

正答数分布



江戸川区（区立） -▲- 東京都（公立） ◆ 全国（公立）

<四分位における割合（都全体の四分位による）>

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

国語	上位 ← → 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
江戸川区（区立）	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都（公立）	33.3	26.9	18.0	21.8
全国（公立）	27.1	28.1	20.8	24.0

%

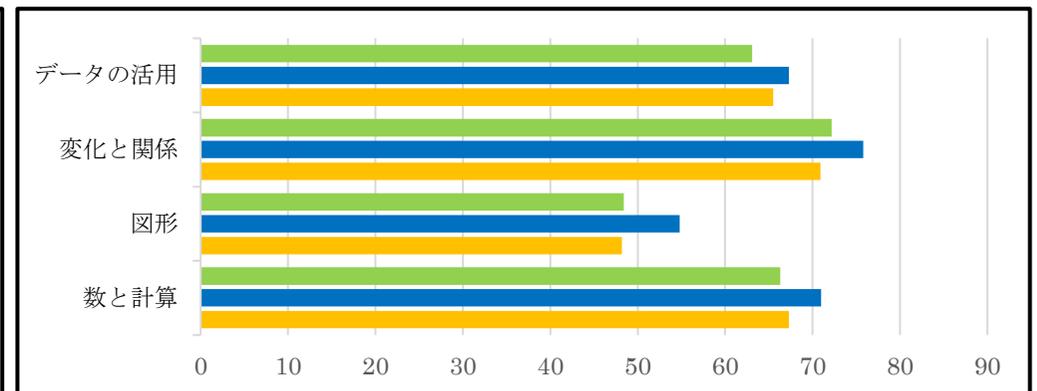
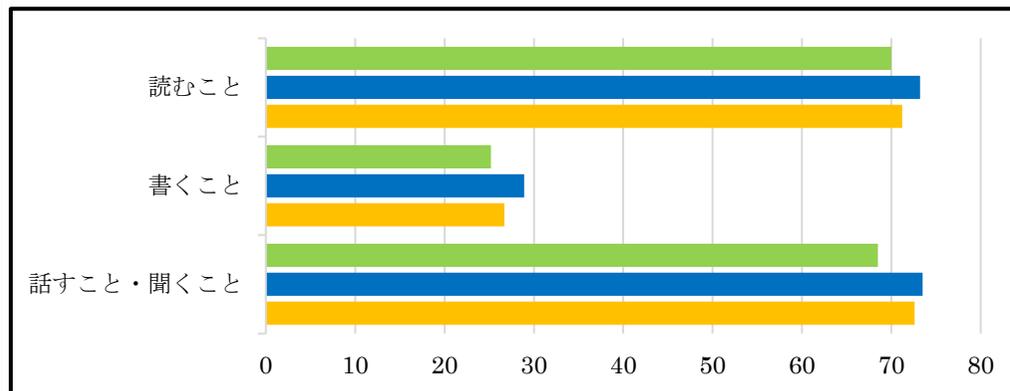
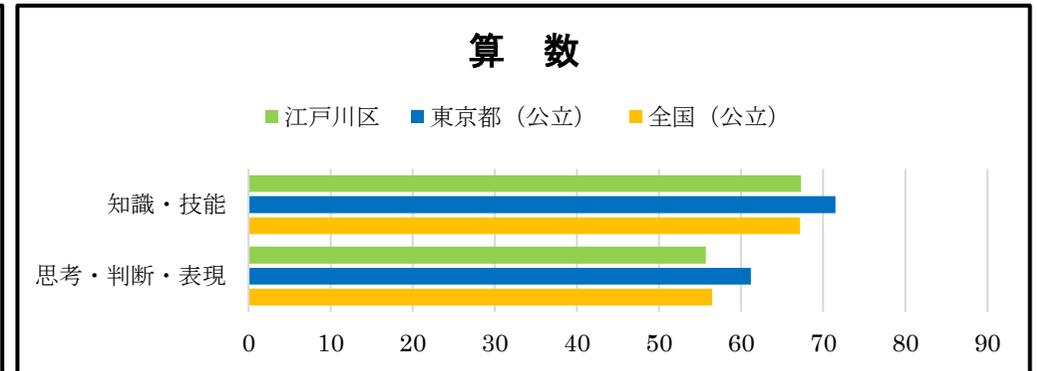
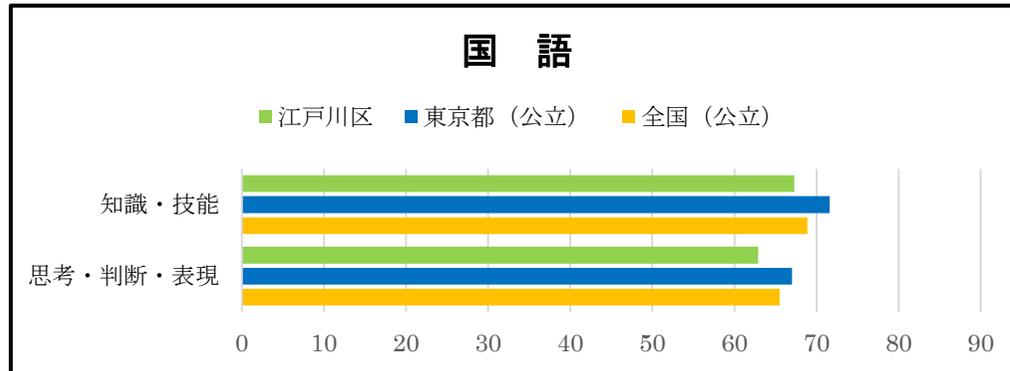
算数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 8～10問	D層 0～7問
江戸川区（区立）	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都（公立）	29.2	28.7	20.9	21.2
全国（公立）	20.2	29.9	24.4	25.5

%

令和5年度「領域別」の結果と課題【小学校】

「領域別」の結果

以下、平均正答率（%）を示す。



【平均正答率の差】

	国語	算数
江戸川区（区立）	65%	62%
東京都（公立）	69%	67%
全国（公立）	67.2%	62.5%
都との差	-4ポイント	-5ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

<全国との関係>

○全国平均正答率について、国語は2.2ポイント下回り、算数は同程度である。

○「知識・技能」において、国語の正答率は全国平均正答率を1.6ポイント下回り、算数の正答率は全国平均正答率と同程度である。「思考・判断・表現」において、国語、算数は、全国平均正答率と同程度である。

<東京都との関係>

○国語、算数ともに、全ての領域において都平均正答率を下回る。

○「知識・技能」において、国語は4.3ポイント、算数は4.2ポイント、都平均正答率を下回る。

令和5年度「設問別」の結果と課題【小学校】

国語

平均正答率が全国より高い問題

ウ きかん は7月1日から15日までです。

【出題の趣旨】 1三(1)ウ
学年別漢字配当表に示されている漢字の文の中で正しくつかうことができる。

【正答率】

江戸川区	73.2%
東京都	76.2%
全国	72.6%

【本区のこれからの取組】

漢字の書き取りについては、副教材として漢字ドリルを購入し、漢字の筆順や語句を知り、短文を作る練習をしてきている。タブレット教材のドリルパークも併用しながら、引き続き、身につけさせていく。

三 川村さんは、「川村さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、ウを漢字に書き直すことにしました。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) ——部ア、ウを漢字でていねいに書きましょう。

平均正答率が都・全国より低く、無解答率が高い問題

【出題の趣旨】 3二

目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

【正答率】 【無解答率】

江戸川区	62.9%	22.3%
東京都	68.6%	18.0%
全国	70.2%	14.3%

【本区のこれからの課題】

問われていることを正しく理解し、自分の考えを文章にあらわすということに対し、抵抗を感じている児童が多いと考えられる。自ら考えを文章で書く活動を各教科等で繰り返し取り組ませていくことで、児童の各力を育てていく必要がある。

二 谷さんは、寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを「インタビューの様子」の□で話そうとしています。あなたが谷さんなら、どのように話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを書くこと。
- 「インタビューの様子」の、寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

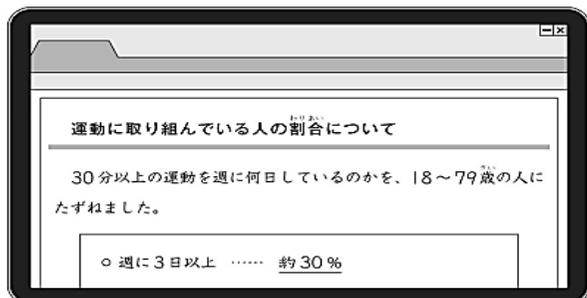
令和5年度「設問別」の結果と課題【小学校】

算数

平均正答率が全国より高い問題

4

あいさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。



1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

【出題の趣旨】

4 (1) 百分率で表された割合について理解している。

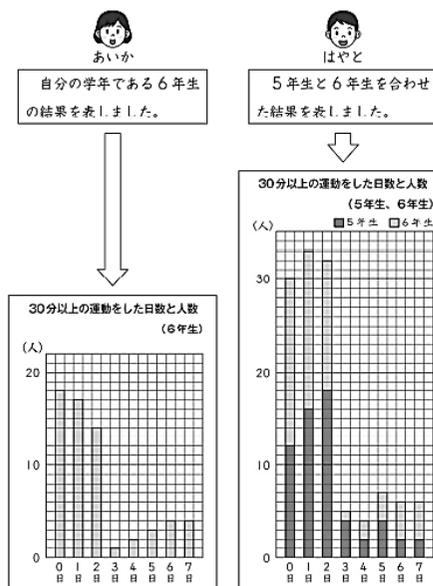
【正答率】 4 (1) 江戸川区 49.9% 東京都 56.2% 全国 46.0%

【本区のこれからの取組】

百分率について正しく理解できている児童が全国平均と比べて多い。しかし、50%に満たない状況であり、基礎的な学力が身に付いてきているとは言いがたい。授業改善や放課後補習教室を活用し、引き続き基礎的・基本的な知識・技能の習得に取り組んでいく。

平均正答率が都・全国より低く、無解答率が高い問題

(3) あいさんたちは、5年生と6年生に運動カードを配って調べた結果をポスターにのせるために、30分以上の運動をした日数と人数をグラフに表すことにしました。



どちらのグラフも「0日」、「1日」、「2日」の人数が多いということが同じですね。



でも、2つのグラフをくわしく見ると、ちがうところもありますね。

そこで、あいさんたちは、日数に着目して、2つのグラフのちがうところを、次のようにまとめました。

【「0日」についてまとめたこと】

「0日」に着目すると、次のようなちがいががあります。6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。

【「0日」についてまとめたこと】と同じように、「1日」に着目してまとめると、どのようになりますか。

下の□の中に、「6年生のグラフ」、「5年生と6年生を合わせたグラフ」の「3日目」の3つの言葉と数を使って書きましょう。

【出題の趣旨】 4 (3)

示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。

【正答率】

江戸川区 51.9%
東京都 56.0%
全国 56.2%

【無解答率】

18.2%
15.9%
13.8%

【本区のこれからの課題】

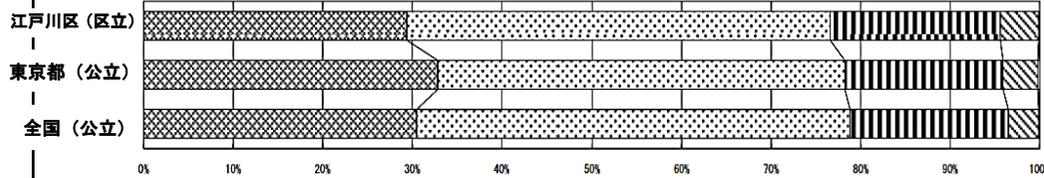
算数だけではなく、社会や理科等の各教科でグラフの読み取り方について確実に習得を進めるとともに、読み取れたことを、言葉と数を用いて説明する力を高める必要がある。

令和5年度 児童質問紙調査【小学校】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

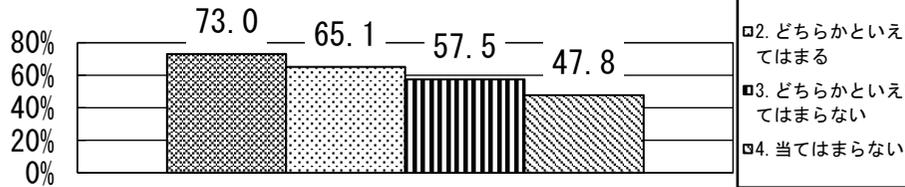
33 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答

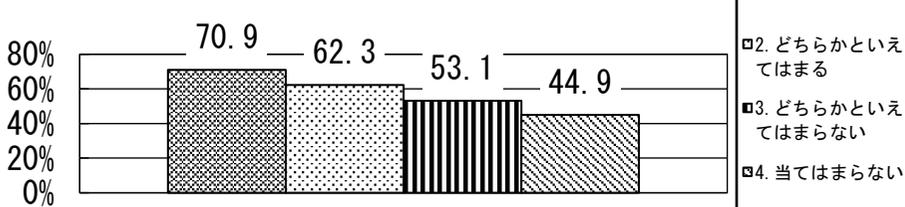


授業への主体的な取組と学力のクロス集計

国語



算数



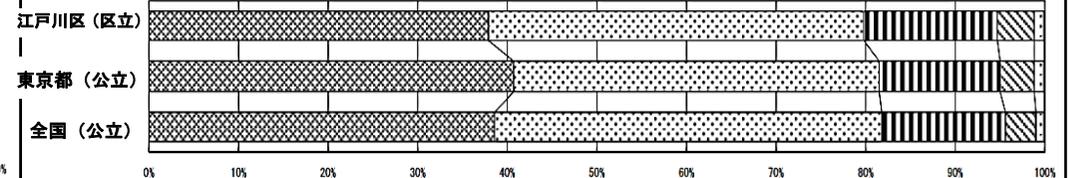
「当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合が、全国及び都を下回っている。課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいると回答した児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。

児童が課題に対して主体的に取り組むことができるよう、授業の導入や教材の内容、課題提示等の工夫をし、自主的・自発的に学習に取り組む態度を養う必要がある。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

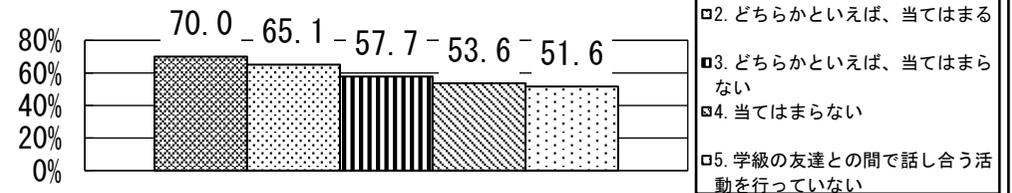
36 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない
☐4. 当てはまらない ☐5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない ☐その他

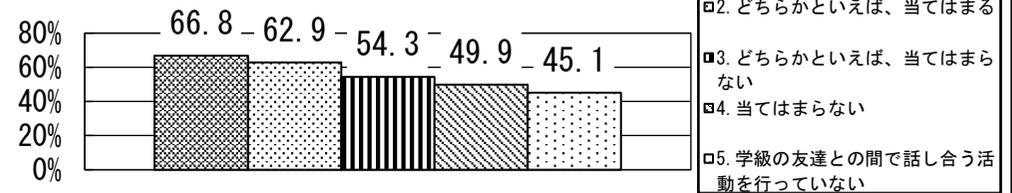


授業への対話的な取組と学力のクロス集計

国語



算数



「当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合が、全国及び都を下回っている。話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりした児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。

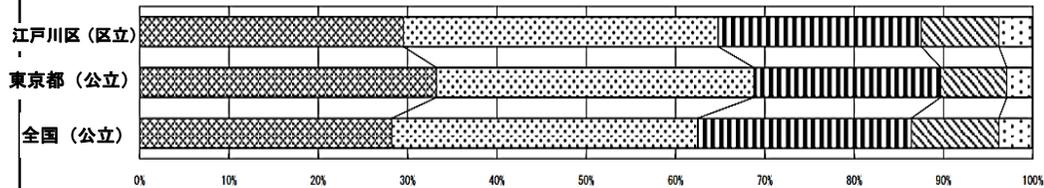
児童が対話的な学びができるよう、課題提示の工夫や場面を意図的に設定させるなどの授業改善を促していく必要がある。

令和5年度 児童質問紙調査【小学校】

ICTを活用した学習状況

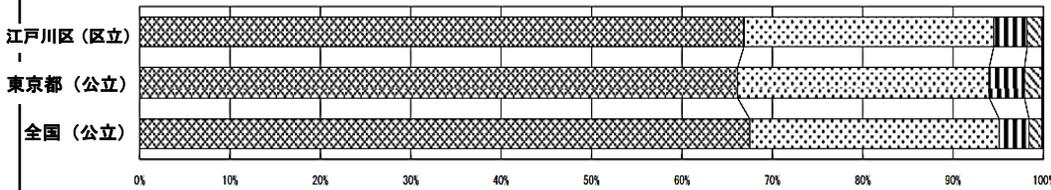
29 5年生まで受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

- ☐1. ほぼ毎日 ☐2. 週3回以上 ☐3. 週1回以上 ☐4. 月1回以上 ☐5. 月1回未満 ☐その他 ☐無回答



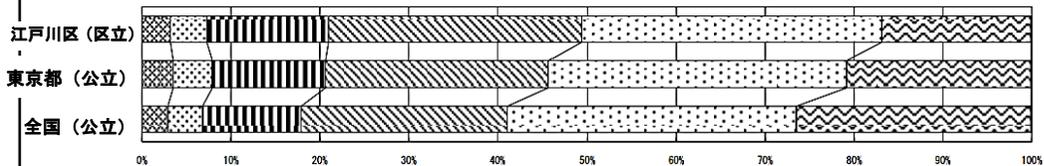
30 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

- ☐1. 役に立つと思う ☐2. どちらかといえば、役に立つと思う ☐3. どちらかといえば、役に立たないと思う ☐4. 役に立たないと思う ☐その他 ☐無回答



31 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

- ☐1. 3時間以上 ☐2. 2時間以上、3時間より少ない ☐3. 1時間以上、2時間より少ない ☐4. 30分以上、1時間より少ない
☐5. 30分より少ない ☐6. 全く使っていない ☐その他 ☐無回答

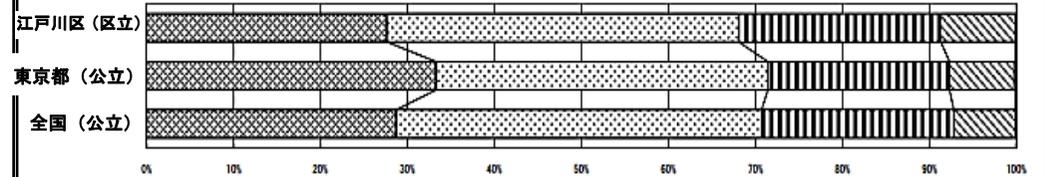


授業内で、PC・タブレットなどのICT機器の活用について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童の割合が全国を上回っている。また、授業以外でのPC・タブレットなどのICT機器の活用については、「1時間以上」と回答した児童の割合が、全国と都を上回っている。ICTの活用が浸透してきている状況の中で、さらに「個別最適な学び」にしていくための効果的な活用について、授業改善を図っていく必要がある。

学習習慣・学習環境等

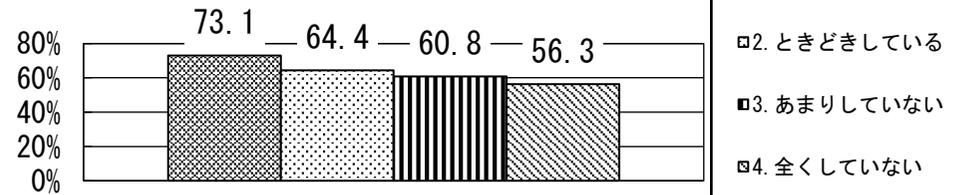
16 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

- ☐1. よくしている ☐2. ときどきしている ☐3. あまりしていない ☐4. 全くしていない ☐その他 ☐無回答

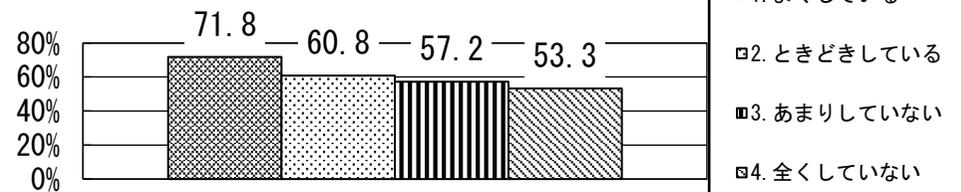


学習計画と学力のクロス集計

国語



算数



「自分で計画を立てて勉強をよくしている」と回答した児童の割合が、全国及び都を下回っている。自分で計画的に勉強を進めていると回答した児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。

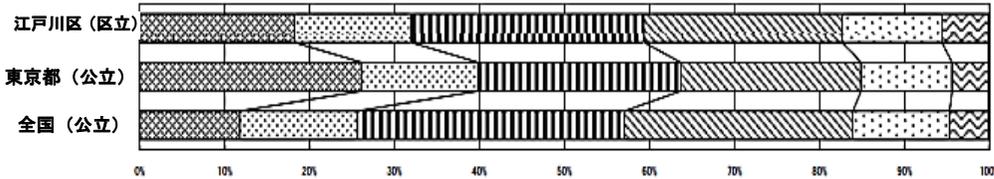
授業以外でも児童が自発的に学習を続けられるよう、放課後補習教室の活用、一人一台端末での家庭学習等、児童が自ら意欲的に学習できる環境を整えることが必要である。

令和5年度 児童質問紙調査【小学校】

学習習慣・学習環境等

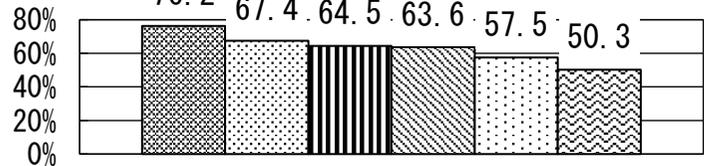
17 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット学習を含む）

1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない
5. 30分より少ない 6. 全くしない その他 無回答



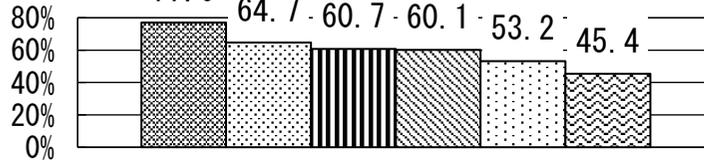
学習習慣と学力のクロス集計

国語



1. 3時間以上
2. 2時間以上、3時間より少ない
3. 1時間以上、2時間より少ない
4. 30分以上、1時間より少ない
5. 30分より少ない
6. 全くしない

算数



1. 3時間以上
2. 2時間以上、3時間より少ない
3. 1時間以上、2時間より少ない
4. 30分以上、1時間より少ない
5. 30分より少ない
6. 全くしない

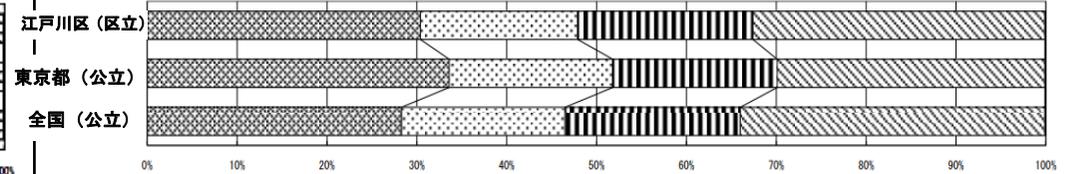
学校の授業時間以外の勉強時間が「1時間以上」と回答した児童の割合が、全国よりも上回っているが、都よりは下回っている。学校の授業時間以外の勉強時間が多い児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。

児童の学習意欲及び学力を向上させるため、ICT機器を活用した家庭学習の充実を図っていく。

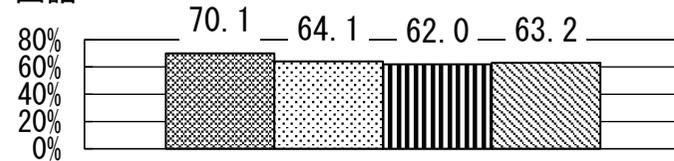
外国語の話すことへの取組

58 これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない その他 無回答



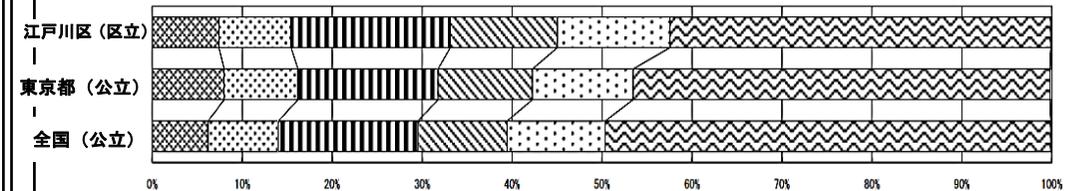
国語



1. 当てはまる
2. どちらかといえば、当てはまる
3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない

59 家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。

1. ほぼ毎日 2. 週3回以上 3. 週1回程度 4. 月1回程度 5. 月1回未満 6. 行っていない その他 無回答



学校以外で、英語を使う機会があったかについて、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が、全国の割合を上回っているが、都の割合よりは下回っている。授業以外で英語を使う機会が多かった児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。

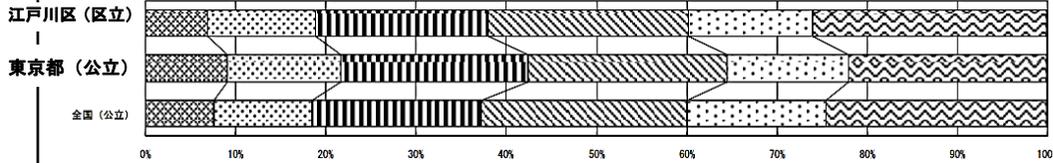
家庭学習の課題（宿題）として、ICT機器を使用した課題（宿題）を出しているかについて、半数以上の学校が何らかの課題を出しており、全国・都を上回っている。児童が自らICT機器を活用して学習していく取組をさらに推進していく。

令和5年度 児童質問紙調査【小学校】

読書習慣

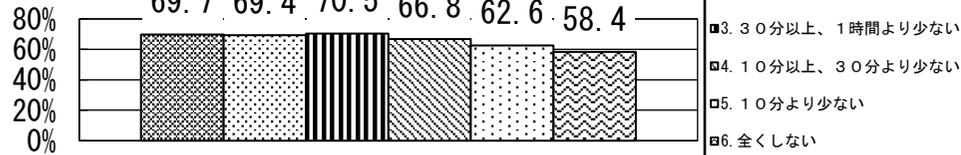
20 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- ☐1. 2時間以上
- ☐2. 1時間以上、2時間より少ない
- ☐3. 30分以上、1時間より少ない
- ☐4. 10分以上、30分より少ない
- ☐5. 10分より少ない
- ☐6. 全くしない
- ☐その他
- ☐無回答

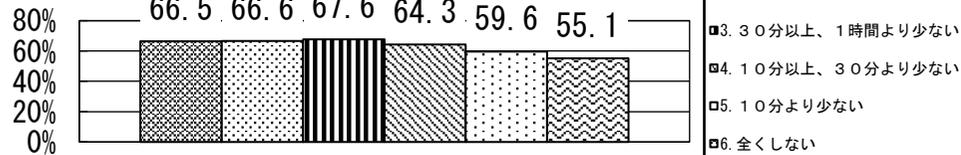


読書習慣と学力のクロス集計

国語



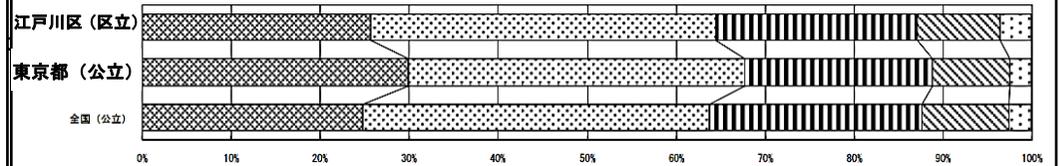
算数



発表活動の取組

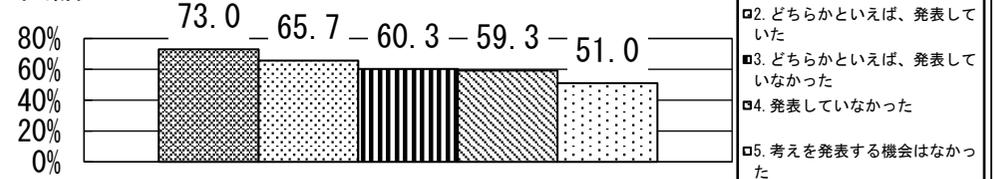
32 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

- ☐1. 発表していた
- ☐2. どちらかといえば、発表していた
- ☐3. どちらかといえば、発表していなかった
- ☐4. 発表していなかった
- ☐5. 考えを発表する機会がなかった
- ☐その他

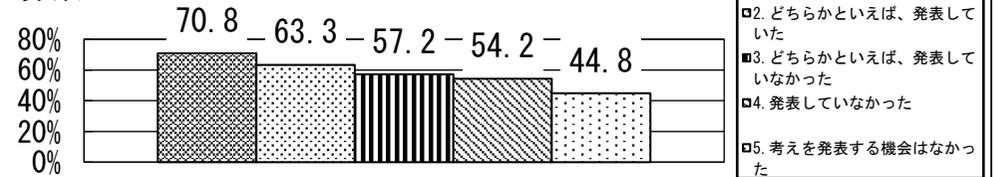


発表活動と学力のクロス集計

国語



算数



学校の授業時間以外に、どのくらい読書をしているかについて、「30分以上」と回答した児童の割合が、全国の割合を上回っているが、都と比べると低くなっている。授業時間以外で読書をしている児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高くなっている。

読書科の朝読書を通して、本に親しむ機会が多くなっているが、自発的に読書しようという意識につながっていないと考えられる。学校図書館の電算化を進め、本が借りやすい環境を整備することや、公共図書館の巡回職員を活用して読み聞かせを行っている学校がある。効果的な活用事例を発信していく必要がある。

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたかについて、「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と回答した児童の割合が、都よりは下回っているが、全国の割合を上回っている。発表場面で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した児童の方が、そうでない児童よりも、平均正答率が高い傾向にある。

ただ発表場面を作るのではなく、どのようにしたら相手に伝わりやすい発表になるかを考えさせ、ICT機器の効果的な活用も含め、指導できるように授業改善を図っていく必要がある。

令和5年度 学力向上に関わる主な取組【小学校】

○「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の策定

- ・「江戸川区立学校における学力向上に向けた取組の指針について」における論点を基に、学力向上に向けた具体的な取組を推進

○「放課後補習教室」の実施

- ・放課後補習教室事業の実施（令和4年度から全校で実施）
- ・年間約150日間実施

○東京方式 習熟度別指導ガイドラインに基づく効果的な「習熟度別指導」の推進

- ・算数の授業において、効果的な「習熟度別指導」を実施

○ICTを活用した協働学習の推進

- ・各教科等の授業で一人一台端末を活用し、授業改善を実施

○学校図書館の活用

- ・学校図書館の環境整備を進め、各教科等で学校図書館を活用
- ・学校図書館への区立図書館職員の全校巡回

○「読書科」の充実

- ・読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成（全校の各学年で年間35時間実施）
- ・読書科推進研修の拡充（年間7回）

○ミライシード ドリルパークの活用

- ・ミライシード ドリルパーク（国語、社会、算数、理科、英語）を活用した放課後補習を実施（ICT支援員を派遣）
- ・児童の自宅での活用を推奨（IDとパスワードを配布）
- ・「ミライシード ドリルパーク 江戸川っ子 study week!」の実施（各学期に1週間実施し、平均年間総学習回数が多い学校を表彰）